

舞鶴市廃棄物減量等推進審議会（第5期）第11回会議 摘録

【日 時】令和2年10月2日（金） 午後2時～午後3時30分

【場 所】市役所別館6階 大会議室

【出席委員】青山委員、内海委員、尾上委員、木谷委員、田中委員、品田委員、  
谷口委員、西山委員、丸山委員、森委員、山川委員

【事務局】市民文化環境部長 藤崎、環境対策室長 福田、生活環境課長 大谷、  
リサイクル事務所長 上枝、清掃事務所長 田中

【傍聴者】6名

1. 開会
2. 議題

(1) 「舞鶴市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直し」に係る  
答申（案）について

事務局から「舞鶴市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しについて

【答申】（案）」について説明。（資料1、資料2）

①（5）ごみ減量の目標について

【意見等】

（尾上委員）前回会議の意見であった「ある程度の目標が示されている方がよい」という意味では、ある程度、詳細に記載されており、この内容でよいと思う。

しかし、具体的な目標値が分かることで、この目標を達成しないといけないという使命感に陥ってしまうので、頑張ろうという印象をより感じとれる柔らかい表現にできないか。

（青山副会長）目標値を数字で表現するほうが、どれくらい減量すれば達成できるかをイメージしやすく、市民もごみの減量に取り組みやすい。  
自治体の計画等で数字を具体的に示すのは良いと思う。

（品田副会長）目標値の数字をごみ減量に取り組む際の目安として捉えれば良い。しかし、尾上委員が懸念されていることが起きないように、捉え方については、しっかり広報等で周知する必要がある。

（山川会長）柔らかい表現として、「目標値の具体的な取り組み」の部分で「具体的な取り組みの目安」と修正してはどうか。

- (内海委員) 食品ロスを削減するための具体的な取り組みとして「買い物をするときは、手前に陳列されている商品を買う。」とあるが、賞味期限が早いものから買うということか。
- (山川会長) 賞味期限が早いものから買うという捉え方で間違いない。しかし、「買う」という表現だと買わなければならないと捉えてしまうこともある。「なるべく」を足して、「なるべく手前に陳列されている商品から選ぶ」としてはどうか。
- (西山委員) 消費者の購買行動に対して制限を設けるのはどうなのか。また、賞味期限が短いものを買うと家庭から排出される食品ロス量が増えるのではないか。
- (品田副会長) 「なるべく」という言葉が入っているので、すぐに使う場合と使わない場合で消費者が選択して買うことができるという意味合いになると思う。
- (大谷課長) 「期限切れでも食べられるものも」を「賞味期限と消費期限を正しく理解する」に変更してはどうか。
- (谷口委員) 本当に伝えたいことだけに絞って記載してはどうか。
- (山川会長) 食品ロスを削減する上で「食材が傷む前に使うこと」と「適切に使うこと」が特に必要だと思う。  
ここの表現については、シンプルに「早く傷みそうな食材から使う。」にしてはどうか。
- (木谷委員) 食品ロスを 11 グラム削減と言われてもどのくらい減らせば 11 グラム削減できるのか分からない。
- (田中委員) 身近な食材を例に挙げ、この食材を何個分減らせば、11 グラムの削減を達成できるということを具体的に示すことでイメージしやすいのではないか。
- (山川会長) 特定の物だけで食品ロス量全体の削減目標を表現するのは難しい。また、特定の物だけを減らせばいいという感覚では、食品ロスを削減することはできない。削減するには、傷みそうなものを早く使うことや食べ切れる量を作るなどの行動面で呼びかけていくことが重要。
- (青山副会長) 計画では、目標値として数字を示していけばいい。啓発チラシにおいて、11 グラムはお茶碗何杯分のご飯に相当するなど、具体的に示していけば良い。表現方法についてはしっかり検討し、チラシを作成してほしい。

#### 【修正箇所 27 ページ】

- ・「減量目標を達成するための具体的な取り組み」を「減量目標を達成するための具体的な取り組みの目安」に修正。

- ・【①食品ロス】の取り組みのうち、「手前に陳列されている商品を買う」を「なるべく手前に陳列されている商品から選ぶ」に修正。
- ・【①食品ロス】の取り組みのうち、「保存は、冷蔵庫には期限の長い食品を奥に入れる。賞味期限をチェック。期限切れでも食べられるものも」を「賞味期限と消費期限を正しく理解する」に修正。
- ・【①食品ロス】の取り組みとして、「早く傷みそうな食材から使う」を追加。

## ②基本理念について

### 【意見等】

- (森 委員) 基本理念に「持続可能な」という文言は必要か。
- (山川会長) 本計画については、SDGs の目標との深い関わりを意識して基本方針を掲げているので、基本理念には、SDGs に関連した文言として「持続可能な」を入れたい。
- (谷口委員) 「地域」という言葉が自治会を紐付ける言葉として市民に受け止められると、「地域」が指すところが自治会や町内、小学校区であると捉える人が多くいると思う。「地域」を「このまち」という表現に変えることで舞鶴市全体を意味していることが更によく伝わると思うので、変更してはどうか。
- (田中委員) 基本理念下段で「持続可能なまち舞鶴」とあるので、「地域」という表現でも舞鶴市全体を意味していると思われる。
- (谷口委員) 「地域」を自分の住んでいるまち（舞鶴市）と市民に受け止めてもらえるのであれば「地域」という表現でよい。
- (山川会長) 基本理念については、原案どおりでよいか。

⇒基本理念については、原案どおり

## ③基本方針について

- (上枝所長) 9 ページの基本方針 1 の 2 つ目の項目「2. プラスチックごみの減量・資源化・適正処理」は、「適正処理」という表現のままでよいか。
- (山川会長) 表現を「適正処理」から「適正排出」に修正する。

### 【修正箇所】

- ・9 ページ、11 ページ、13 ページに記載の「プラスチックごみの減量・資源化・適正処理」を「プラスチックごみの減量・資源化・適正排出」に修正。

## (2) その他

### ①答申書の提出について

事務局から答申書の提出について説明。  
→意見等なし

### ②ごみ処理手数料の見直しについて

事務局から「ごみ処理手数料の見直し」について報告。

#### 【意見等】

- (尾上委員) 手数料の徴収により搬入台数は減るだろうが、手数料の支払い等により受付時間が増え、施設周辺で渋滞ができてしまうと懸念するが、どのように考えているのか。
- (上枝所長) 手数料を徴収することによりどれくらい搬入台数が減るかについては分からないがかなり減ると想定している。そのため、渋滞についてもかなり緩和されると思う。
- (尾上委員) 周辺交差点での交通の混乱の発生、また、小学生が利用する道路でもあるので安全性の確保が難しくなる状態になってはいけない。搬入台数の把握等ができた段階で更に安全性を考慮した対応をお願いしたい。
- (山川会長) 受付を待つ際の待機場所を施設の敷地内で確保できれば、道路での渋滞等の緩和につながると思うので、検討してほしい。

### ③委員挨拶

- (山川会長) 第5期審議会では、延べ11回にわたり会議を開催し、活発なご議論をいただいた。第5期審議会については、今回の会議を持って節目を迎えるので、最後に各委員からご挨拶を頂戴したい。

#### ※品田副会長より順番に挨拶

- (品田副会長) 委員として審議会に参加することでとても勉強になったことが多くあった。持続可能な社会を築くため、市民一人ひとりが自分たちの生活の向上、福祉のために努力しなければならないことが多いと思った。
- (谷口委員) 子育て世代の人と関わる機会が多いので、その機会の中で、子育て世代の人へ伝えていければと思う。  
コロナウイルス関係だけでなく、ごみの排出・分別についても新しい生活様式の中で、行政に任せる部分、ライフスタイルの見直しにより対応できる部分を今の生活と将来を見据えた両方の考え方で話し合い、市民の気運醸成に働きかけたい。

- (西山委員) 手数料の徴収やごみの分別の手間など市民の負担になることばかりが先行して進んでいるため、市民はとても負担感を抱いていると思う。収集回数の増加や収集場所の検討など、市民の利便性の向上に繋がる施策についても早急に検討し、進めてほしい。
- (丸山委員) 第5期から審議会に参加し、ごみに対する意識が変わった。SDGsの目標に対する取り組みの影響もあり、現在、青年会議所の懇親会の時は3010運動を実施し、食品ロスの削減に取り組んでいる。
- (森委員) 審議会に参加することでごみ処理体制を維持するためには、市民負担を増加せざるをえない理由を理解することができた。市民の中には、どうして自分たちが負担しないといけないのかについての理由を知らず、理解できない人も多いと思うので、市民に対してしっかり情報の発信、説明をしてほしい。
- (田中委員) 事業者としては、食品ロス削減のための取り組みなどは、売り上げ等の経済面に大きく影響するため、たくさん食品を買ってもらいたいの为本音である。しかし、環境への配慮についても経済の活性化と同等に必要なことであるので、どうすれば両立できるのかこれから更に勉強したい。
- (木谷委員) 生活の中でごみに関心を持つことはなかったが、審議会に参加し、ごみに対して関心を持つようになった。ごみ処理手数料の見直しについては、審議会にて議論して決定した方針とは異なるものを検討されていることに残念だと感じている。職場等でもごみについて尋ねられることがあるので、私が伝えられることがあれば伝え、役目を果たしたい。
- (尾上委員) ごみ処理手数料の見直しについては、適切な設定にすることをテーマに掲げ、他市と比較して検討してきた。他市と比較すると舞鶴市民は、優遇されている状況にあるため、市民負担が増加することになるが、近隣市の平均に近づいた。こうしたことを市民に理解いただかないといけない。概要版は、見開き1ページぐらいで作成してほしい。また、ホームページでもワンクリックで舞鶴市が検討していることや必要な情報が見れるようにしてほしい。そうすることで、市民が目にする機会が増え、更に市民への周知ができると思う。
- (内海委員) 今回まとめた案を市民にどのようにアピールするかが重要。住んでいる地域は、山間部にある約20世帯の小さな集落であり、85歳以上の世帯が3分の1ほどある。そのため、ごみを自分で排出できない世帯が多くあるので、高齢者等のごみ排出困難者を対象とした施策のさらなる充実についてもお願いしたい。

(青山副会長) 審議会という名称の会議において、これだけ活発に意見が出るのはめずらしいことである。

ぜひ、委員の皆様が起点となって議論内容の情報を広く市民へ伝えてほしい。市民の間で広がることで一人ひとりが問題意識を持ち、ごみを起点としたゴミニティの形成が実現できると思う。

(山川会長) 市民の声を意見として出していただいたことで、とても活発に進んだ審議会であったと思う。

舞鶴市としては初めて市民が議論してできた目標、計画であるので、1つの区切りではあるが出発点でもある。

この計画が形だけで終わらないためには、より多くの市民に関心を持っていただき、市民が声をあげていく必要がある。委員の皆様には、普段の生活や職場等において関わる人に話を振っていただく等により、引き続き、市民周知等に協力をお願いしたい。

了